

ニューズレター 経済教育学会

2013. MAY. No.19

第 29 回全国大会のご案内・・・1～3 春季研究集会のご報告・・・4 拡大理事会議事録・・・5

コラム「恩師の群像」・・・6 経済教育 情報クリップ・会費納入のお願い・・・7

経済教育学会第 29 回全国大会のご案内

2013 年 9 月 28 日（土）～29 日（日）／会場：滋賀大学教育学部

大会実行委員長 加納正雄（滋賀大学教育学部）

本年度の経済教育学会全国大会は、滋賀大学教育学部で行ないます。滋賀大学は経済学部と教育学部の二学部からなる大学で、経済学部は彦根市に、教育学部は天津市にあります。教育学部は、JR の石山駅から、バスで 15 分ほどのところにあります。琵琶湖から流れる瀬田川の近くで、大学の近くには石山寺があります。JR 石山駅は、JR 京都駅から 15 分程度の距離です。

さて、今年度の全国大会では、佐和隆光先生に「経済学を学ぶということ」という演題で講演をしていただく予定です。佐和先生は多くの新書を書いておられるので、それらを通じて先生をご存知の方も多いと思いますが、一方で、佐和先生は、経済教育にも関心を持っておられます。佐和先生が邦訳された『レモンをお金にかえる法』という本があります。この本は、子どものための「経済学入門」の本です。大学以前の経済教育に関心を持っている先生方には、良く知られた本です。この本の解説で「経済学の考え方は、今日のアメリカの、そしておそらくは明日の日本の社会文法（ソーシャル・グラマー）にそっくりなのです」と書かれています。この解説が書かれてから既に 30 年がたっています。「明日の日本」は、現在の日本になっています。このようなソーシャル・グラマーを学ぶ必要性はますます高くなっているといえます。

小中学校の学習指導要領が 2008 年に改訂されました。改訂の経緯の記述に、「グローバル化」や「知識基盤社会」という言葉が使われています。これらの言葉で表わされるような社会の変化は、教育のあり方にも大きな変化を与えています。新しい学習指導要領では、見方や考え方を学ぶことが強調されています。経済教育でも、経済的な見方や考え方を教えることが必要です。そして、経済的な見方や考え方を学ぶということは、まさにソーシャル・グラマーを学ぶことではないでしょうか。（2 ページに続く）



(1 ページからつづく)

また、経済を学ぶ意義は、現代社会を生きてゆくために必要だということだけではありません。現代社会を理解して、制度や政策を良くしていくためにも、経済の知識が必要になります。去年の衆議院選挙では、経済政策が争点の一つになりました。現在、アベノミクスと言われる経済政策が話題になっています。そのため経済学の入門書の売上げが好調だという話もあります。ただし、読んでいるのは学生ではなく、若手社員が勉強をしておしているということです。アベノミクスの是非が議論になるように、経済政策はわれわれの生活にも大きな影響を与えます。制度や政策を理解して、それをより良いものにするためには、経済に関する知識が必要です。

しかしながら、一方で、経済に関しては、ほとんど知識がないという人が多くいます。経済に関しては、大学以前でも学ぶ機会があります。例えば、中学校の「公民」には経済分野が含まれます。大学以前の経済教育は、昔よりは盛んになったといえますが、まだ多くの問題があります。小中学校の教員で経済の知識がある先生も、また、大学で経済学を学んだことがある教員も、むしろ少数です。大学生でも、経済に関する知識がほとんどないままに、社会に出て行く学生が多くいます。

経済教育学会の会員には、大学で専門的な立場から経済教育をしている方が多いと思います。しかし、経済教育を大学以前の経済教育のあり方や、より広い観点とかかわらせて考えることは、大学の専門的な経済教育にも必要なことではないでしょうか。大学の教育は、高等学校の教育との連携も求められています。また、専門的な経済教育においても、より広い観点から経済教育はいかにあるべきかを考える必要があります。

大学で専門的な経済教育をしている方も、初等中等段階の経済教育に関心のある方も、それぞれの立場から、このようなことを考える場として本年度の全国大会を開催できれば幸いです。多くの方の参加を、心よりお待ちしております。

会場

滋賀大学教育学部

〒520-0862 滋賀県大津市平津2丁目5番1号

期日 2013年9月28日(土曜日)

9月29日(日曜日)

滋賀大学へのアクセス

JR石山駅(JR京都駅から15分)からバスで15分、

滋賀大前下車徒歩8分(2・4系統)、

または滋賀大西門下車(52・53・54系統)、野々宮下車10分(1系統)

滋賀大学教育学部のホームページ

<http://www.edu.shiga-u.ac.jp>

第29回全国大会事務局

滋賀大学 加納正雄研究室

〒520-0862 滋賀県大津市平津2丁目5番1号 滋賀大学教育学部A棟411室

TEL : 077-537-7742 Email : kano@edu.shiga-u.ac.jp

プログラム(暫定)

2013年9月28日(土)… 午前：理事会
午後：シンポジウム、基調講演・パネルディスカッション
シンポジウム終了後：総会、懇親会(会費4000円を予定)

2013年9月29日(日)… 午前：分科会報告 昼：理事会 午後：分科会報告 *すべて自由論題で募集
詳細について 2013年9月上旬にプログラム等を掲載した大会の案内をお送りします。

●報告をご希望の方は…

〈報告応募要項〉 締切：**2013年6月28日(金)まで**にお送り下さい。(必着)

〈応募方法〉 経済教育学会のホームページ <http://www.ecoedu.jp> から下記の必要事項を入力してください。

〔必要事項〕 報告者氏名・所属(複数の場合は全員)、連絡先(代表者のみ、郵便番号、住所、電話番号、ファックス番号、電子メールアドレス、携帯電話等の緊急連絡先)、報告論題、報告要旨(300字程度)

〈分科会での報告の採否〉

8月8日(木)までに電子メールにてご連絡します。報告申し込みが多い場合には、次回の全国大会または春季研究集会でのご報告をお願いする場合があります。報告の申し込みをされたにもかかわらず8月8日(木)までに連絡がない場合には、大会実行委員会(kano@edu.shiga-u.ac.jp)までお問い合わせ下さい。

〈報告要旨集の原稿について〉 報告を希望される方は、あらかじめ作成しておいて下さい。

報告要旨の原稿(40字×35行、2ページ以内)を作成し、電子メールの添付ファイルにて、8月15日(木)までに経済教育学会事務局 E-Mail: office@ecoedu.jp までお送り下さい。

・様式は経済教育学会のホームページよりダウンロードできます。 ・2ページには図表を含みます。 ・レイアウトに合わせて作成して下さい。 ・ページ番号、ヘッダー、フッター等はいれないで下さい。

〈ご注意〉本学会で学会報告を希望される場合には、年会費を納入して下さい。新規入会される場合には、報告申込時に年会費5,000円(会員の種類により異なります)を納入して下さい。

●参加をご希望の方(会員)は…

〈参加申込〉 締切：**2013年9月13日(金)まで**にご参加の有無をお知らせ下さい。

申込方法：経済教育学会のホームページ <http://www.ecoedu.jp> から下記の必要事項を入力してください。受付は8月上旬から行ないます。

〔ホームページでの必要事項〕 参加者氏名・所属、連絡先(郵便番号、住所、電話番号、ファックス番号、電子メールアドレス)、懇親会の出席・欠席

*なお、昼食につきましては会場付近に飲食店はございません。各自ご用意いただくか、弁当を申し込んでください。

●参加をご希望の方(会員以外)は…

〈参加方法〉 全国大会は一般の方にご参加頂けます。費用は無料で、事前申し込みは不要です。ご興味・ご関心のある方は、お気軽にご参加ください。(ご参加頂いてご入会をご希望される方は会場にてお申し出ください。)

全国大会への〈報告のご希望〉ならびに〈参加の申し込み〉についてのお願い

電子メールやファックス、郵送も受け付けますが、可能な限りホームページの利用にご協力頂けますよう、お願い致します。電子メール、ファックス、郵送の場合には、前記の必要事項をご記入の上(任意の様式で結構です)、株式会社サルト経済教育学会担当宛に送付してください。

〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172 株式会社サルト経済教育学会担当

FAX:079-284-0904 E-Mail: office@ecoedu.jp

【春季研究集会のご報告】

2013年3月23日(土)、大月短期大学にて経済教育学会、春季研究集会が開催されました。

大月短期大学では、開講科目「大月学入門」を通じて、地元大月市の街づくりに学生が積極的にかかわりながら、学ぶ試みがなされてきました。シンポジウム「大学と地域」では、街づくりに携わってきた市民の皆さんから、学生参加もふくんだ大月の街づくりをさまざまな方向からお話をうかがうことができました。また、多数の市民の皆様の参加がありました。今回のシンポジウムで報告されたいくつかの事例も含めて、今後引き続き、大月短期大学の取り組みの成果が学会で論文等として報告され、その経験が他の大学・地域の取り組みにも生かされることを期待いたします。



研究集会終了後、場所を河口湖湖畔のレイクサイドみずのさに移し、24日20:00から25日12:00にかけて、拡大理事会が行われました。25日の午前は橋本会員のオーガナイズにより、「今後の会長・事務局の決定方法」、「メールマガジンの活用」に関するグループ討論も行いました。これは橋本会員のいわゆる“橋本メソッド”の体験でもあり、いずれの議題も継続審議となりましたが、活発な意見交換の場となりました。



自由論題

- (1) 13:00-13:35 中里弘穂 (福井県立大学)
「キャリア教育におけるPBL型授業の導入と課題」
- (2) 13:35-14:10 斎藤清 (兵庫県立大学)
「コピー用紙で折る立体模型が育む経済教育・消費者教育」
- (3) 14:10-14:45 飯島香織 (神戸山手大学)・久富健治 (神戸山手大学)
「大学生の金融リテラシーに関する調査研究 — 大学生を対象にした「人生とお金に関する調査」から—」
- (4) 14:45-15:20 吉野文雄 (拓殖大学)
「外国人のための日本経済論」

研究集会2 シンポジウム「大学と地域」

15:30-17:30

報告者:

河西悦子 (大月森づくり会)

小俣 孝 (大月商店街協同組合)

佐々木利行 (おおつきエコビレッジ)

大窪恭子 (大月文化工房)

知見邦彦 (大月を良くしよう市民の会)

コメンター:

宇佐見義尚 (亜細亜大学)

藤岡惇 (立命館大学)



【経済教育学会 2012 年度(拡大)理事会(2013 年 3 月 23・24 日)議事録】

◆日時：2013 年 3 月 23 日（土）20:00～22:20

場所：レイクランドホテルみづのさと（山梨県河口湖畔）
出席者（50 音順）：大坂洋、加納正雄、中里弘穂、中谷武雄、新里泰孝、橋本勝、畠山大、藤岡惇、山根栄次、横田数弘（10 名）、委任状提出 14 名。理事出席者、委任状総数が理事総数（26 名）の過半数を超え、理事会は成立しているとの報告があった。会議に先立ち、中谷会長を議長に指名した。議事録確認 9 月 29 日、30 日理事会及び 29 日総会の議事録（ニューズレター掲載済み）が承認された。

I 審議事項

1. 後継の事務委託業者について

事務局より現在の事務委託先である㈱ACNet の後継事務委託先として国際文献社、㈱サラトの 2 社を検討した（参考見積もり提示）が、価格の面から㈱サラトに委託したいとの提案があり、以下の付帯事項を付けることで事務局に一任することが、了承された。

（付帯事項）

・同社は、学会事務の経験が無いので必要業務を明確にし、新たな見積書の提出を求めることを前提に、了承する。

2. 会計の現況について

・事務局より、会計年度は 4 月からであるが予算案の承認は、10 月の総会時になるので 4 月から 10 月までは仮予算を作成することになるとの説明があり承認された。

・3 月 19 日現在の会費残高が報告された。会費納入がやや少ないことが懸念されるとの説明があった。

3. 学会賞について

・事務局より、現在の応募状況が報告された。学会賞（研究部門）4 点、学会賞（実践部門）1 点、特別賞 1 点、奨励賞 1 点が応募されている。もう少し応募数が増加すればより望ましいので、自薦、他薦に関わらず応募を推奨するという要請があった。また、締め切りは 3 月末であるからメール等で応募を促すという説明があり了承された。

4. 補充理事の提案

・事務局より、長谷川理事より田中惇会員を理事とする旨の推薦があり、田中会員が了解済みであることを確認して田中惇会員の理事就任が承認された。

5. 会計監査の任命について

・事務局の手違いにより前回の総会で会計監査の推挙をしなかったことが説明された。事務局より、増田和夫会員（継続）、横田数弘会員が推挙され、本人の了解を確認した上で両会員の会計監査就任が承認された。

II 報告事項

1. 会費の徴収状況について

・事務局より、配布資料に基づき会費の徴収状況が報告された。

2. 会員の異動について

・事務局より、配布資料に基づき新入会員 5 名、大会会員 8 名との報告がなされた。

会員拡大の PR をするべきではないか、長期の会費未納者を除籍にするべきでは等の意見交換がなされ、規定を再確認し、できるだけ厳正に対処する事が了承された。

3. 第 29 回全国大会（滋賀大学）について

・29 回大会の準備状況の確認と意見交換が行われた。

・会長より全体のテーマ、基調講演、分科会のテーマなどそろそろ内容を詰めてほしいという要請があり、担当理事が了承した。（時間が遅くなったので、閉会し 24 日午前中に継続審議することとした。）

◆日時：2013 年 3 月 24 日（日）9:00～12:00

場所は前日に同じ。出席者は前日の横田数弘が抜け、代わりに水野勝之。理事出席者、委任状総数が理事総数（26 名）の過半数を超え理事会は成立しているとの報告があった。昨日に引き続き、中谷会長を議長に指名した。

I 審議事項

1. ニューズレターの発行体制について

・事務局より、現在のニューズレターの編集は手間がかかり、今後の担当者の負担や継続性を考えるとより簡易な形式にすることが望ましいとの説明があった。意見交換がなされ、編集の手間を確認し、具体的な編集・印刷経費を明確にすることも含め継続審議とすることが了承された。

・事務局より、次回のニューズレターの発行は 5 月、その次は全国大会後を予定との説明があり、了承された。

2. 2013 年度春期研究集会について

・2013 年度春期研究集会の開催地及び担当理事について審議された。

・山根理事に一任し、関西圏以外でのより適切な開催地が提案されない場合は三重大（担当：山根理事）で開催することが了承された。

・併せて、2014 年度の春期研究集会は福井県立大学（担当：中里理事）とすることで了承された。

3. 会長、事務局の改選について

・グループに分かれ積極的な意見交換が行われたが、この件については継続審議となった。

4. メールマガジンの活用について

・グループに分かれ積極的な意見交換が行われたが、この件については継続審議となった。

II 報告事項

1. 第 28 回全国大会（明治大学）の会計報告

・水野担当理事より 28 回大会の会計報告があり、配布資料の通り承認された。

2. 第 29 回全国大会（滋賀大学）について

・29 回大会について昨日に継続し、準備状況の確認と意見交換がなされた。

3. 第 30 回全国大会（立命館大学）について

・事務局より要旨集の作成が大会開催費の中でコストがかかっているとの説明があった。要旨集の作成をどのようにするか、参加費を徴収するか否かは今後議論することで了承された。

4. 30 周年記念事業について

・会長より 30 周年記念事業については、30 回大会の担当である藤岡理事が大会の開催内容と一緒に考えてほしいという要請があり了承された。

5. その他

・会長より 7 月の理事会は、29 回滋賀大会の準備としたこと。会場に近い場所として京都駅周辺が提案され了承された。

以上、敬称略

恩師の群像

「末永隆甫先生・菊本義治先生のこと」

岩田年浩

1975年の4月に私は教育系大学を出た後に教職に就き、兵庫県立の神戸商科大学(現在、兵庫県立大学)の大学院に入学しました。

当時は、マルクス経済学の権威も強く、マルクス研究者も多くいました。そのかなりは『資本論』体系の解釈に重点を置かれ、近代理論に対してはイデオロギー批判をするのがほとんどでした。その中で、近代経済学(当時の多くはケインズ派の数理経済学)そのものを研究する内在的批判の潮流がありました。一橋大学の杉本栄一氏はその道の人で、近代理論の最新形態を精緻に批判的に研究されていました。その弟子の一人がケインズ左派的な色濃い末永隆甫先生でした。同じく経済学と言いながら二つの経済学は没交渉(価格や利潤などのキーワードの概念からして異なる)で、マルクス自身が近代経済学の最新のものを取り上げる研究者としての立場であったのに、超越的なイデオロギー批判ばかりになっている状況は日本の経済学界固有のおかしな状況でした(マルクス経済学者が中心となった経済理論学会の会員数は1970年に860人で現在約900人、理論計量経済学会——後に日本経済学会は1970年に870人で現在約3000人)。

ところが、大学院での授業は英書(印象に残るのは、R. F. Harrod, M. Dobb, R. G. D. Allen, J. A. Kregel 等)の経済理論と数理経済学のテキストが多く、早く内在的批判の立場で経済学を勉強したい私の思いとは違い最初は大いに焦りました。この大学院には、数理的マルクス経済学者置塩信雄氏の最初のお弟子さんである菊本義治先生が若くしておられましたが、こちらはコンプリートな数理モデルにリアルな要因を込めて、体系の安定不安定を見出すというものでした。近代理論のほとんどが安定性を帰結する中で、不安定性を帰結されていました。このお二人を除く教員はほとんどの方が新古典派数理経済学の立場で、二つのゼミは相互乗り入れのようになっていました。この二人の先生の授業を中心に受けましたが、いずれも、これぞ科学という印象が強かったです。難解な数式の展開を自分でするのは苦労しましたが、当時のこれらの先生方の教育スタイルは厳しく、こちらは先輩のやり方を知り、同輩や後輩には負けてはならないと緊張する、あつという間の院生時代でした。このころの経験は浅学非才の私に研究と教育への自信を与え、いろいろなことに関心を広げてくれました。

末永先生は以後近代理論の合理性の検討や新たに登場してきた、マネタリズム批判へと向かわれました。目の病気を患われながら、晩年まで、英書に親しまれ研究論文を教え子に送ってこられたのは強く印象に残っています。菊本先生の方は多くのお弟子さんを育てられ、繁茂の状を呈されています。



お知らせ：『経済教育』31号電子版の公開について

学会誌『経済教育』31号の電子版が公開されました。学会ホームページの以下のURLより、閲覧できます。

<http://www.ecoedu.jp/journal/backnumber.html>

『経済教育』は第29号以降、国立情報学研究所の

「論文情報ナビゲータ[CiNii]」により電子ジャーナル化されています。

学会ホームページでは、電子ジャーナル化以前の号の目次も公開されております。

新刊情報

●100万人が受けた『中学公民』ウソ・ホント？授業

河原和之 著、明治図書、¥ 1700(税別)

「中学公民」は、こんなにも楽しい科目だったのかと思わせてくれる一冊である。授業のテーマごとに、はっとする発見や問いかけが収録されている本書は、明日すぐに授業で使いたくなる面白いネタが盛りだくさんである。現役の教師ならずとも、大人も十分楽しめる。

本書がユニークなのは、そうしたネタの提供にとどまらない点だ。公立中学で長年にわたって教鞭をとっていた著者の視点は、一貫して“生徒目線”。生徒の興味をそそるような関心のある話題から始まり、教師との問答まで想定して書かれているため、読む側は今まさに授業を受けているかのような興奮を味わうことができる。と同時に、教える際の「発問」の妙も学ぶことができるのである。病床で書かれたとは思えない、熱い授業がここに再現されている。(あんびるえつこ)

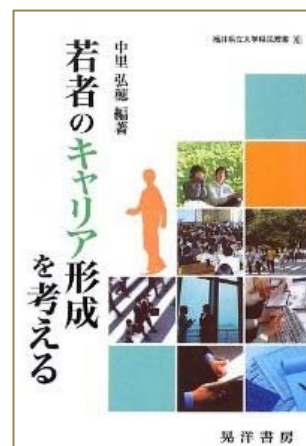


●若者のキャリア形成を考える

中里弘穂 編著、晃洋書房、¥ 1500(税別)

本書は、2011年度に福井県で開催された大学連携リーグ連携企画講座、福井県立大学公開講座の内容を元に、加筆・編集されたものである。若者がキャリア形成を考える必要性や就職をめぐる現状や背景、教育現場で行われている就職支援の状況や学生たちの就職活動の様子・問題点等から、就職後のキャリア形成にまで、内容は多岐に及んでいる。共働き率全国1位である福井県の各種支援施策等も興味深い。

「若者は将来の社会を形成する力である」と編者。少子化が進む中、貴重な「力」である若者をどう育てていくか。キャリア教育に直接携わる人のみならず、あらゆる教育関係者、行政、親など様々な立場の人に参考になるだろう。(あんびるえつこ)



会費納入のお願い

すでに2013年4～5月に会費を納入した方にも、請求書が同封されることになってしまいました。お詫びもうしあげます。詳細はホームページの「新着情報の「会費請求についてのお詫び(2013年5月分について)」(<http://ecoedu.jp/2013/06/20135.html#000074>)をごらんください。

~~2013年度の年会費をまだお支払い頂いていない方~~、過去に未納のある方につきましては、納入のご依頼をお送りさせていただきます。郵政局(ゆうちょ銀行)にて下記の振替口座に年会費(学生等の条件により金額は異なります)をお振込み下さい。

口座番号:00920-3-252875 口座名義:経済教育学会

年会費 :正会員 5,000円、学生会員(大学院生を含む) 2,000円、65歳以上の会員 2,500円

(65歳以上の場合は、ご本人の申請により会費を半額とさせていただきます。払込用紙の通信欄に「生年月日・年齢」をご記入下さい。)

・会計年度が2011年より「9月から翌年8月まで」から、「4月から翌年3月まで」に変更となりました。2011年度は経過措置のため、「2010年9月1日から2012年3月31日まで」の会費として、上記の金額をご請求させていただきました。2012年度以降については「4月1日から翌年3月31日まで」の会費となります。

・経済教育学会は日本学術会議協力学術研究団体(詳細は <http://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html>)です。学会費は所属先の校費にてお支払い頂ける場合があります。

事務窓口変更のお知らせ

2013年3月31日付で、事務委託先業者が従来のACNetより、株式会社サラトへ移転したことにともない、学会の事務窓口が変更になりました。

事務局は従来どおり、富山大学大坂研究室ですが、入退会などの連絡窓口は株式会社サラトとなります。

メールアドレス office@ecoedu.jp (学会事務局、株式会社サラトの両方にメールが届きます)

株式会社サラト経済教育学会担当 (大川)

〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172 FAX:079-284-0904

学会事務局

〒930-8555 富山市五福3910 富山大学経済学部大坂研究室気付

「経済教育学会メールマガジン」について

経済教育学会では、学会に関する情報を提供するためのメールマガジンを発信しております。

これまではメールアドレスを登録された会員の方に送信しておりましたが、学会運営の活発化、円滑化のため、原則として全会員の学会に登録のメールアドレスに送信することにいたします。メールマガジンの購読が困難な方、学会登録のアドレス以外での購読をご希望の方は学会事務局(メールアドレス office@ecoedu.jp)まで、ご連絡願います。

学会に関する情報は学会ホームページに集約されます。事情により、メールマガジン購読が困難な場合は、定期的に学会ホームページにアクセスいただくようお願いいたします。

<編集後記>

今年のGWは、実家に帰って、結婚時に残してきた荷物の整理をした。花の独身時代は、折しもバブル真っ盛り。机の引き出しから出てきた証券会社からの通知や預金通帳を見ると、驚くほどの数字が並んでいた。すべて引きだし済みなのが悲しいが…。他にも、バブルの遺産ともいえる宝飾品やバッグ、洋服なども多数。熱狂の中にあって、熱狂を知ることは難しい。かの時代を懐かしくも苦々しく思った。

震災から2年。メディアには『復興』や『脱原発』の文字に代わって『アベノミクス』なる言葉が躍るようになった。さて、この時代をいざれどう振り返るのだろうかー。

(あんびるえつこ)

会員の動向

2013年4月1日現在の会員数は260名です。前回大会以降の入会者は以下の5名です。小野智一(東京福祉大学) 久保田哲也(千葉県立浦安南高等学校)、井坂友紀(茨城工業高等専門学校)、飯嶋香織(神戸山手大学)、大阿久博(武蔵野大学)。退会者は、以下の8名です。松村直樹、兼田繁、出口勝志、松尾桂三、西田達昭、宮崎博臣、佐藤卓利、山田良治 (事務局 大坂洋)

経済教育学会 ニューズレター 第19号

2013年5月25日発行

発行人 経済教育学会 会長 中谷武雄

編集人 あんびるえつこ 松本朗

発行所 〒930-8555

富山県富山市五福3190 富山大学経済学部

大坂洋研究室

発送元 株式会社サラト経済教育学会担当

〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172

FAX:079-224-7746

電子メール office@ecoedu.jp

学会費送金先 ゆうちょ銀行 振替口座番号 00920-3-252875

印刷所 有限会社 エムディーエス

Tel : 03-5261-9021

http://www.mds-pro.com